

野菜づくりで地域の農業を守る

～甲州市神金 マル神農園～



神金地域の今

神金地域は、甲州市塩山の北端に位置し、標高が700mと高く夏でも朝夕が涼しい気候となっています。日中との寒暖差が大きいため、おいしい野菜を作る条件に恵まれています。一方、農業者の高齢化や担い手不足が深刻化していることもあり、耕作放棄地が増加しています。

耕作放棄地を利用した野菜栽培

このような地域の状況を危惧した、マル神農園の経営者の古屋さんは「耕作放棄地を少しでも減らしたい。農地を守りたい。」という思いを抱き、農地中間管理事業等を活用し、地元である神金地区の耕作放棄地を借りて野菜の生産を始め、今年で11年目を迎えます。創業当初から耕作放棄地を借り始め、今では農園の8割が、耕作放棄地を解消した畑となっています。

しかし、神金の農地は、傾斜が大きいことや農道が狭いことも多く、作業効率が決まるとは言えません。ですが、古屋さんは神金地域の農業のために、今後も神金地区の耕作放棄地を借りて生産していきたいと語っていました。今回見出しの風景を飾った落花生畑は、地域の取り組みで耕作放棄地から再生され、平成24年春に菜の花畑、夏にはひまわり畑となった土地です。その土地を引き継いで現在、マル神農園では落花生を育てています。



↑落花生畑を見守る、古屋さん



↑落花生の花

耕作放棄地の解消



整備前



整備後

草木の撤去や耕起等を必要に合わせて行います。草木が生い茂ると獣のすみかにもなるため、耕作放棄地の解消は地域の農業を守ることに繋がっています。

解消した耕作放棄地で育ったオクラ



↑オクラ
↑オクラの花
↑収穫されたオクラ

以前は、耕作放棄地でしたが、今ではオクラやモロヘイヤ等がのびのび育つ畑になっています。借りた当初は、雑草が育つ荒地で、草刈りや耕起することが大変だったそうです。

大切に育てられた野菜は、小売店やレストラン等に出荷されます。その他にも、地産地消の取り組みを行っている甲州市の給食センターにニンジンや小松菜、大根などを出荷し、地域の小・中学校の給食に使われています。さらに、地域の保育園や小学生たちがマル神農園の野菜を収穫し、収穫したものを昼食に提供するなど食育の取り組みも毎年行われているそうです。

マル神農園は、現在30〜50種類の野菜を栽培しています。農業や化学肥料を使わず、自然に気持ちよく育ててもらえるように、こまめな草取りや、土の水分を維持するためにもみ殻をまく等、手間をかけているそうです。このように育てている野菜には、固定種というものがあります。固定種とは、品種改良をしていない地域に根付いた昔ながらの野菜を指します。形や大きさは均一ではありませんが、おいしい野菜になるそうです。現在栽培している里芋や大豆が固定種で、祖父の代から種を取り続けて育てています。代々受け継ぐことがおもしろい秘訣かもしれません。

古屋さんがまだ東京で暮らしていたころ、たまに帰って食べる神金の野菜がおいしく、この野菜をいろんな人に食べてもらいたい、という思いが設立のきっかけだったそうです。

マル神農園の野菜

マル神農園の始まり

収穫された野菜たち



「こちらはコリンキー、かぼちゃの仲間です。触感がシャキシャキしていてサラダや炒め物に使います。私のオススメは、浅漬けです。ぜひ、作ってみてください。」